

製品名: AGS3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06682**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	GPSM1
別名	GPSM1; AGS3; G-protein-signaling modulator 1; Activator of G-protein signaling 3
遺伝子 ID	26086.0
SwissProt ID	Q86YR5
免疫原	ヒト AGS3 の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

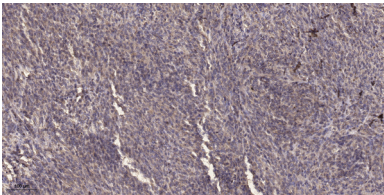
G タンパク質シグナル伝達調節因子 (GPSM) は、G タンパク質サブユニットとの相互作用を通じて多様な機能的役割を果たします。この遺伝子は、G タンパク質シグナル伝達の実体非依存性活性化因子をコードしており、これは G タンパク質シグナル伝達系の基

礎活性に影響を与えるいくつかの因子の1つです。このタンパク質は、N末端側に7つのテトラトリコペプチドリピート、C末端側に4つのGタンパク質調節(GPR)モチーフを含みます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2011年12月],domain:GoLocoドメインは、G(i/o)αとの相互作用を媒介します(類似性による)。GoLocoドメインは、G(i/o)αに対するGDI活性に不可欠です。function:ヘテロ三量体Gタンパク質シグナル伝達受容体非依存性活性化因子として機能するグアニンヌクレオチド解離阻害剤(GDI)。G(i/o)αサブユニットをGDP結合型に保ち、ヘテロ三量体Gタンパク質シグナル伝達をGタンパク質共役受容体から切り離します。大脳皮質前駆細胞の紡錘体の配向と非対称な細胞運命を制御します。腸細胞のマクロオートファジーにも関与している可能性があります。薬物依存において役割を果たしている可能性があります。PTM:リン酸化はG(i/o)αとの相互作用を制御します。類似性:GPSMファミリーに属します。類似性:4つのGoLocoドメインを含みます。類似性:9つのTPRリピートを含みます。サブユニット:GDP結合状態で優先的にGNAI1、GNAI2、およびGNAI3と相互作用します。GNAO1とも相互作用する可能性があります。STK11/LKB1およびMACF1と相互作用します(類似性による)。INSC/inscuteableおよびFRMPD1と相互作用します。組織特異性:腸細胞で発現します。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、45分)。